

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

新型コロナ感染拡大対策 入学式延期、休校続く

東京建築カレッジは、政府、東京都、本校母体の東京土建一般労働組合の新型コロナ感染拡大を受けての対策方針を検討し、研修生や講師・指導員、事務局員等と、それらの方々と結びつきのあるすべての人の命を最優先に守るため、5月10日（日）まで休校することになりました。これにより、4月8日（水）の第25期生入学式も中止しました。（2020年4月2日）



日本国政府、東京都による「緊急事態宣言」が5月6日に解除されれば、5月13日（水）入学式、授業再開の予定ですが、解除されない場合は、休校期間を延長します。年間カリキュラムは大幅に組み替えます。研修生や講師・指導員、研修生派遣事業主の皆様には決まり次第お知らせします。

寄稿

“アフターコロナ”を 地域工務店の時代に



東京建築カレッジ
研修生派遣事業主 相羽建設株式会社
相羽 健太郎

予想もしなかったコロナウイルスとの闘いがはじまり、日々変化する状況や終わりの見えない事態に私も含め多くの方が不安を感じる日々を過ごしています。工務店経営者として私が今、思うことは「スタッフ、職人さん、パートナーさん、住まい手さん、お客さんの生活を守る」ことです。そのためには現状を悲観的に憂えたり、否定したりするのではなく、きっと来るであろう希望ある未来をイメージし、前向きに今できることをやることだと考えます。

現在、そして卒業をした建築カレッジでお世話になっている社員大工も含めて、弊社スタッフとは「臨機応変に各々が主体的に考え、判断し行動しよう!」と共有していますし日々そういった仕事であり表現をしてくれていて、頼もしく感じると共に私自身も勇気とモチベーションをもらっています。

今後、さらに今までの常識にとらわれない挑戦であり、新たな世界をつくるために主体性を必要とする場面は多くなります。それが発揮できた結果としてアフターコロナの時代には、ものづくりの時代、地域工務店の時代となり、我々の活躍領域は更に広がっているはずで、そのためにも建築に関わる、すべての人が協働し、切磋琢磨してこのコロナを乗り越えましょう。

※相羽建設株式会社〔東京都東村山市〕は、社員大工の育成に本校を活用、第20期、第21期、第22期、第23期、第24期、第25期と、6年連続で合計9人の社員を研修派遣（入学）している中小工務店です。

第25期生は17人に

新たに入学希望者があり、臨時入学選考会を行いました。第25期生は1人増え17人になりました。



仲間たちへ

24期（年生） 新田 幸士

まず自分自身と家族が感染しないように、注意を払いましょう。そして初めて経験するこの危機を恐れずに、ピンチをチャンスと捉えて、今の時間を有意義に使って欲しいと思います。

私の場合は、もともと人生で残された時間は限

られています。それが、やりたい事をまだしていないので、いま、感染して命を失いたくはありません。生き延びたいですね。そして、たとえ時間がかかったとしても、人類の叡智により、平穏な世の中は必ず戻ってきます。その時のための準備をしたいと考えました。

この時間をただ遊んで過ごした人と、次のステップを目指して準備をする人とは大きな差が出る

に違いありません。時は戻せないのです。私は、この機会に仕事を整理する決断をしました。このままでは学校の実習についていけない事を悟ったからです。製図用のパソコンや大工道具も新たに購入しました。

今後、学校がどのような事態になろうとも、頑張る卒業して建築士の資格もとりたいたいで、みんなよろしく頼みます。

次のステップ目指して準備しよう

メーデーと建築カレッジ

声をあげよう。
君となら、
変えていける。



5月1日（金）はメーデー。労働組合が母体になってつくられた東京建築カレッジは、4月下旬の教養科目の授業で「メーデーの話。労働組合ってなんだろう」を

毎年実施してきました。労働者の団結、要求実現に向けた連帯が社会進歩の原動力であり、建設分野では活動の前進で職業訓練校（本校は「職業能力開発短期大学校」）まで作り上げた到達点をすべからず、研修生に伝えたいからです。

コロナ禍を乗り越えて新時代ひらこう

本校が開校した1996年度（平成8年度）から2007年度（平成19年度）まで「教務部長」を務めた渡辺顕治さんから、東京建築カレッジへメッセージが届きました。ご紹介します。



初代教務部長 渡辺顕治さんから

御無沙汰しています。元教務の渡辺です。カレッジでは12期の1年次までお世話になりました。それから10年余。74歳です。横浜・日吉に住んで、自由業をしています。というか、まちづくり住民活動家。元気ですよ！

カレッジやめて以降、正直に言って、片時もカレッジの事は忘れていません。

新コロナ禍といえば、人類の直面している天災、ある面では自然災害と違っていいものなのでしょう。しかし、対処の水準が低かったり、誤ったり、後手後手だったりすると、それは社会災害、さらには政治災害になります。今、なにか、人災の様にもなっている。口先でみずからの至らざるを詫びて済む問題ではありません。刻々と死者を増やしているのです。

世界の人々と協力一致して立ち向かうべき災害です。今こそ、軍備ではなく、人々の命と暮らしの安全、安心のためにこそお金を、人を投入すべきです。そもそも「人間の安全保障」は、兵器や軍事力ではない。巨大軍事覇権国アメリカが極度のコロナ禍に苦しむ現実から学ぶべきだと思います。

人々の安全安心の確保こそを本質とする建築の仕事に携わり、職業とする若い建設職人とカレッジ生の出番です。限りなく期待しています。がんばってください。

赤地先生に「瑞宝単光章」

本校開校時から建築設計製図の講師を務め、教務運営委員としても多大な貢献をされた赤地龍馬先生（86歳）が「春の叙勲」で「瑞宝単光章」を受章されました。

赤地先生は、都立工業高等学校建築科で教鞭をとる一方、20代のうちから、建設労働組合が実施する職業訓練や建築士受験準備講座の講師を務め、教育の充実と発展に貢献されました。東京建築カレッジでは開校準備に参加、教務運営委員として学校全体の運営に大きな役割を果たしてこられました。

現在、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、本校は休校状態にあり、メーデーも中央、地方共に集会やデモンストレーションは中止になりましたが、ウェブ配信で開催の意義を発信したり、ウェブ開催の努力が行われています。

コロナ禍の中、収入を大幅に減らしたり、失職の不安のさなかにいる仲間がいます。一方、医療機関などでは感染の恐怖にさらされながら自らの役目を果たそうと頑張っている仲間がいます。多くの人が感染拡大を食い止める努力をおこなう一方、主権者としての自覚を呼び起こし、国や社会はどうあるべきか、考え始めています。切実な要求を掲げ、行動に立ち上がった仲間もいます。今年のメーデーを、私たちがこれからのような国や社会をつくっていくのか、考えあう機会にしていきましよう。

ミニニュース

第21回公開講座

DVD発売

昨年11月3日に開催した、第21回公開講座「木造建築の未来をひらく」のDVDが出来上がりしました。

伝統を継承し現代のニーズに生かそうと地道に頑張る建築職人を励ますテーマと内容で、後藤治工学院大学教授の基調講演、卒業生4人の討論共に、評価の高かった公開講座です。1枚2500円（送料、消費税込み）。購入希望の方は、メールまたはファクスでご連絡ください。

- ①お名前、②所属（会社名・学校名他）、③連絡先電話番号、④送付先住所を明記のうえ、「東京建築カレッジ 第21回公開講座DVD購入希望」とお書きください。代金入金先をお知らせします。入金確認後発送します。